

鹿野町鹿野地区 地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和7年8月19日(火) 19時00分～20時30分
- 2 場所 鹿野町総合支所
- 3 出席者 地区11名 市10名【市民生活部長（地域振興課、協働推進課）、鹿野町総合支所長（地域振興課、産業建設課）】
- 4 テーマ 将来に向けたまちづくりと地域活性化について
- 5 概要

【地元あいさつ】

鹿野町にまち普請の会が始まって22年くらいになる。今年4月に会長を引き継いで5か月しか経過してないので十分に把握できていないが、ここにいる若い方々の意見を聞きながら、これから10年後、20年後の鹿野町に向けた引き継ぎをしていくために何が必要なのか改めて考えていきたい。鳥取市の職員に直接意見を聴ける機会でもあるので、良い懇談会にしたい。

【地元あいさつ】

これからの地域を何とかしなければいけないという思いで皆が集まっている。知恵を出し合い、実際動いて困っていることを相談しながら前に進んでいけたらと思う。

【市民生活部長あいさつ】

本日は、鹿野まち普請の会をはじめ、若い方にたくさん参加していただき感謝申し上げます。鹿野のまちづくりが皆様に支えられていると痛感している。人口減少、少子高齢化がより一層厳しい状況になっている中、次世代の子ども達にこの鹿野のまちをどのように引き継いでいくのか、忌憚のないご意見をお願いしたい。

テーマ 将来に向けたまちづくりと地域活性化について

【地元(説明)】

鹿野まち普請の会は、平成22年に設立し、もともとは城山を守っていくための活動をしていた。鹿野町の課題は高齢化である。また独居世帯も増加しており、10年後や20年後には空き家になるのではないかと考え、現在は空き家対策にも取り組んでいる。本日の未来づくり懇談会では、今の若い人達が今後暮らしていくために鹿野にどうなってほしいか語り合ってもらえたら、それが今後取り組むべき事になると考えている。

懇談会に先立ち、鹿野地域内で「こばしまトーク」を開催した。鹿野についてぎっくばらんに話し合う会である。その会の中で、いろいろな意見が出てきたので、本日はそこについて話し合っていきたいと思う。

【地元】

私は指定管理で鹿野町や青谷町の体育施設を管理しており、スポーツイベントやマラソン大会の運営も行っている。地域の課題というか今後取り組みたいこととして、人口減少や高齢化により、施設の維持の必要性に疑問符がついてしまう。暮らしやすいまちづくりを進めながら、同時に施設を守っていききたい。マンパワーが足りないのでサポーターやボランティアなど利用しながら、まちの中で活動できる方を増やしていきたい。

【地元】

毎年開催している町民音楽祭やボランティアガイドに参加している。母が活動していたのをきっかけに私も参加し始めたが、大人になった今、自分の子どもも参加するようになっている。

私は、参加している大人達が楽しそうにしていると思いながら育った。子ども世代やこれから生まれてくる子ども達も、大人が楽しそう、自分も大人になったら楽しいことをやりたいと思ってくれる環境づくりと活動を続けていきたい。

【地元】

大阪から事業継承で鳥取に帰ってきた。結婚相談所のカウンセラーの経験があり、パートナーシップ講座を立ち上げている。自分は、平成元年生まれで地域に同級生がおらず、少子化を身をもって体験している。鹿野や勝谷にもその波がきていると思う。寂しいと思う子どもが少なくなればよい。大阪での経験をもとに、鹿野でも婚活やのサポートができればうれしい。

【地元】

私は、鳥の劇場のカフェスペースを運営している。隠岐の島にあるジオパーク拠点の施設となっていたホテルで3年間観光業で働いていたが、行く前から演劇祭のケータリングや、業務委託のカフェ運営をやっていた。今は、鳥の劇場のシェアキッチンをどう運営していくか組み立てている。観光業に携わってきたので、観光分野に注目しながら、地元の人が集まれるスペースとなるよう考えていきたい。

【地元】

以前観光分野の職についていたときに観光のおもしろさを知り、自分で起業した。自分がプレイヤーとなって西エリアに観光客を呼びたいと思って、観光客相手にインタビューを行い検証した。市街地から離れているので交通の不便という問題もあるが、体験型の民泊等をやってみたいと考えている。

最近の話だが、暑い中バス停で待っている高齢者に話を聞いたら、バスがしばらくこないし、近所の人に連絡しても繋がらないとのことだった。移動難民が多いと思っていたが、自分が実際に直面すると、どうにかしないといけないと感じた。子どもも高齢者も安心して生活できる鹿野町になってほしいと思っている。自分に何ができるのかは考えているところだが、何かの力になれるようにしたい。

【地元】

いんしゅうまちづくり協議会の運営に携わっている。空き家の利活用、視察研修、セミナー開催など活動は多岐にわたっており、その流れから鳥取県と一緒に人材研修活動もしている。

まちづくりは一つの団体がやっていけることではなく、行政と民間が一緒に動くことがまちの活性化につながると思う。私は県外からの移住者だが、鹿野を選んだ決め手は、住んでいる人達の魅力や気概である。人の活動を応援する力が、鹿野の大きな魅力だと思う。子ども達が育つ環境としても魅力があると感じる。同じような感覚を持っている人がまちづくり協議会にはいる。まちづくり協議会では、大学生のインターン生や市企業立地支援課の企業研修「ことくらぼ」を受け入れている。参加された方からは、自分達がやってみたい挑戦を鹿野で行いたいと言っていたなど、小さいまちだからこそアイデアが実現できるところも、鹿野の魅力だと考える。

【地元】

皆さんの「こうなってほしい」をどうやったら実現できるか一緒に考えていきたい。

【地元】

今の鹿野地区には大きなマーケットが一つしかない。病院も歯科医と総合病院が一つずつあるが、そこに行くにも自動車が必要で、高齢者から移動が難しいという話も出る。

観光で売り出す手立てなど、アイデアがあれば意見を聞きたい。併せて課題についても出していきたい。

【地元】

3年前まで鳥取県外に住んでいたもので、都会との差が良くも悪くもあることを日々感じている。他県のテレビやSNSを活用したプロモーション方法を鹿野に落とし込むとどうなるか。見せ方が重要だと最近気づきがあった。ただ、それをするには個人の力では難しい部分があり、行政やまちの皆さんの意見を聴きながら、鹿野の「見せ方」を考えたい。

都市部の観光コーナーに設けられた鳥取県のブースを見に来た方が、鳥取に行ってみたくなったという話も聞く。鳥取を訪れた人が、そこから鹿野にも行きたくなるという「見せ方」も探求していきたい。

【地元】

隠岐の島は、SNSで上手にマーケティングをしている印象があった。3年過ごして鹿野に帰ってきたが、隠岐の島と同じくらい魅力を感じる。隠岐の島では食材を集めていたが、鹿野でも農家・漁師とつながって同じことができると感じた。情報発信は個人の力で難しい部分があると思うので、協力してもらえるところがあればよいと思う。よい方法があれば知りたい。

【地元】

情報発信が不足していると感じる。以前検証した際に、鳥取のイメージは鳥取砂丘か松島遊覧しか出てこなかった。目につかないから選ばれない。小さなことでも情報発信していけば、少しずつ浸透するのではないかと考えている。

自分のインスタグラムに鹿野の写真を掲載すると、外国人から反響がある。人が行き来できる環境や、情報発信の方法を整えたい。

【地元】

インターン生や県外からの研修を受け入れて感じた課題の一つが、カーシェアリングの仕組みがなく、鹿野を起点にどこかに行くことや、鹿野で観光を完結することが難しいことである。一度鳥取市まで出てやっと、シェアカーやレンタカーを利用することができる。しかし、そもそも鹿野から市内に向かうことが大変である。鹿野が起点になるのであれば、鹿野でカーシェアリングできる仕組みがあればよいと思っている。

また、自分は鹿野に実家のある人と結婚した。そうすると地域に溶け込みやすいと感じたので、仲人のような制度が進めば、地元定着も進むと思う。

【地元】

外国人から来られる方は鳥取のこの場所でないとできないことを求めているので、鹿野でゆったり過ごすというような体験は新しく映って楽しんでもらえると思う。交通や情報発信する経費や人の部分で支援の必要があるのではないかな。

【地元】

先日の「こばしまトーク」では、それぞれのやりたいことが意見としていろいろ出てきたが、世代的に小さい子どもがいたり家のことが忙しいなど、地域活動や事業をしたいと思っても全力投球できないというジレンマがあるのではないかと感じている。昔のように、複数世代が同居する世帯も減少し、子どもが独立してからでは挑戦の腰も重くなってしまう。

30代や40代の世代が会議に出かける時に気兼ねなく家を空けられるような仕組み、例えば託児やサマーキャンプ、あるいは夕飯や朝食を弁当として家族分支給してもらえるなど、時代や家族構成が変わってきている中で意欲を実現させるためのサポートがあると、とても良いと感じた。

今の「鹿野」のイメージができあがった要因として、鹿野町時代の役場職員の功績は大きいと思う。例えば、総合支所に、業務と離れてまちづくり活動に専念する職員が一人でもいれば、気軽に相談に行けると思う。

【地元】

鳥の演劇祭にイギリスと中国、韓国から人が訪れるので、劇場の看板を多言語化しようという意見が出た。バス停のタイムテーブルについても多言語化できないか総合支所に相談した。バスは運営事業者やバス停の所有者の関係で難しいと聞いたが、何かできる方法がないか相談したら検討してくれるのが鹿野町総合支所のよいところだと思う。

【地元】

鹿野まち普請の会が売り込みを進めるとしても、事務局である地区公民館職員が対応できるかという点も難しい。団体を作るにしても担い手不足という話もある。高齢者にも分かる情報発信の方法があるとよい。SNSなどができる団体や人材を紹介してもらえるとありがたい。

交通面について、検討委員会を立ち上げている。よい仕組みがあれば紹介してほしい。鹿野町には日ノ丸バスが運行していて、コミュニティバスも走っているが、例外があれば教えてほしい。ローソンが品物を届けると、買い物のついでに会話が始まるそう。そういうシステムがあれば鹿野が変わるのではないかと考えている。

【地域振興課】

今年度、地域の魅力を発信していただくシティプロモーション事業に取り組みたいと考えている。外部人材を入れる予定だが、鹿野の情報発信の時にはご協力いただきたい。

もう一つ、県外の方がアルバイトの形で仕事しながら地域に滞在し交流する「おてつたび」の事業を8月から始めている。こちらはまだ始めたばかりで、受け入れていただけたところを探している。協力いただける団体があれば相談させてほしい。最近、佐治の梨農家が梨の収穫作業で登録されたところ、2時間で複数の申し込みがあったようだ。

さまざまな活動をしたいという希望に対しては、「輝く中山間地域創出事業補助金」がある。これは、中山間地域の活性化になる活動計画の策定に対し、補助率10/10、上限10万円の支援が受けられる。また、ソフト事業を実施する場合には、補助率4/5、最大3年間で上限200万円が活用できる。本庁地域振興課にご相談いただきたい。

担い手支援としては、地域おこし協力隊がある。地域外の人に入ってもらおうと、自分たちとは異なる意見が聞ける。

人口減少や少子高齢化などで地域の機能の維持ができなくなるなどの地域課題に対して、共助交通やサロン、支え合い活動など地区公民館を拠点に取り組まれる場合には、「鳥取市中山間地域小さな拠点づくり支援事業補助金」がある。これは、拠点の立ち上げ、地域課題解決のためのリーダーの育成や活動に対する支援である。実施主体は地域運営組織なので、鹿野まち普請の会も活用いただける。計画策定に対し、補助率10/10、上限100万円。担い手育成支援に対しては、補助率10/10で上限300万円の支援を最大3年活用できる。

【協働推進課】

皆さんの思いに非常に熱意を感じるとともに、さまざまな活動をされており経験豊富だと感じた。合併前の鹿野町役場職員が公私共にまちづくりに取り組んでいたとのことで、そういったキーパーソンが大変重要だと思う。

交通の話もあったが、利用者が減っている状況を見ると、住民ニーズとダイヤ、交通手段が合っていないのではないかと感じる。数年前に、乗り合いタクシーを実験的に運行したことがある。無料券を配布したり特典もつけてみたが、利用が増えなかった。アンケートをとったところ、家族や近所の方に頼んで乗せてもらおうと回答した人が多かったが、これが10年後、20年後も同じ状況にあるかということや、公共交通が今のように存続しているかということも考えながら生活交通を守っていく必要がある。移動の3回に1回は公共交通を活用していただくなど、公共交通が継続できる取組もしていただけたらと思う。

また、情報発信については、こちらは発信しているつもりでも相手に届いていないというジレンマを感じておられると思う。協働推進課にまちづくり活動のサポート制度があり、専門的な知識や技術のある方を地域アドバイザーとして地域に派遣する「地域アドバイザー派遣事業」がある。他地区でまちづくり活動を実践している方の先進的な取組や、スキルを持った方から話を聞きたいということがあれば、謝礼や旅費については市が負担している。一地区最大5回までご利用いただけるので、情報発信やSNSを使った取組、人材確保やスキルアップで話を聞きたいなどのご希望があれば、協働推進課にご相談いただきたい。

【地元】

輝く中山間地域創出事業補助金は以前活用したことがあるが、何年か経過すれば2回目が見えるか。

【地域振興課】

活用は一度である。

【地元】

小さな拠点づくり支援事業補助金と交通系の補助金を併用して活用することは可能か。

【地域振興課】

補助対象部分が分離できれば対象にできると思う。小さな拠点づくり支援事業は、担い手の活動費などに活用していただければと思う。

【協働推進課】

佐治では小さな拠点づくり支援事業を活用して、住民がドライバーになって住民を運ぶ共助交通にも取り組まれており、使用する自動車の購入や維持費に補助金を活用されている。小さな拠

点づくり支援事業補助金とは別に、共助交通にも支援策があるので、それらを使っていただく形になる。

【地元】

現在鹿野で運行している日ノ丸バスとコミュニティバスに加えて、新しく乗り入れることは可能か。

【協働推進課】

市有償バスも民間バスも運行している地域で別の有償の交通を導入することは困難。共助交通の導入を含め、その地域にあった最適な交通手段を地域で考えていただきたい。

【地元】

鳥の劇場の木工室や被服室は、今後共有スペースにする予定である。地域の方から、地域のサロンとして使用したいという相談を受けたことがあるが、有料なのがネックと感じている。何か支援はないか。

【鹿野町総合支所地域振興課】

鳥の劇場は、鳥の劇場の所有である。計画段階で地域のコミュニティなど広く住民に使ってほしいと考えておられ、だからこそ国、県、市が補助している。鳥の劇場が光熱水費や固定資産税などを負担される関係上、地域の方が使用される際には光熱水費相当の使用料は支払うことになると思われる。何か支援策はないか検討したい。

【鹿野町総合支所地域振興課補足】

自治会や公民館等の事業としての利用であれば、各事業に対する補助金を活用していただくことで支援できるが、個人的な使用に対する助成は難しいと考える。

【地元】

本日説明のあった、「輝く中山間地域創出事業補助金」、「小さな拠点づくり支援事業補助金」、「地域支援アドバイザー派遣事業」などの各種制度について、地域内の誰かがこの制度を活用した場合、他の人が別の取組で活用しようとしても活用できないのか。それとも名義が異なれば、同じ地域内でも制度が活用できるか。

【地域振興課】

「輝く中山間地域創出事業補助金」は予算の範囲内とはなるが、組織と事業内容が異なれば活用できる。「小さな拠点づくり支援事業補助金」は、主体が地域となるので、地域で議論していただきご活用いただく制度である。

【協働推進課】

「地域アドバイザー派遣事業」は、地区公民館単位で最大5回使用した場合は別の方が使えなくなってしまうので協議していただきたい。

【市民生活部長】

本日はたくさんのご意見をいただき感謝申し上げます。こんな地域になりたいという声を実現できるまちが鹿野であると感じた。将来につなげていただきたいと思う。

人口減少や少子高齢化により、以前のような地域活動が難しくなったという声を聴いており、息の長いまちづくりをしていくためには、仕事と家庭と地域活動を良いバランスで続けていくことが大事と考える。

本日いただいたご意見については、各部局とも共有する。